

学校にホテル並のトイレを

五年生の男の子が母親に付き添われて我が家にあやまりにきた。

少し前のことだが一年生の孫が放課後に学校のトイレにはいってやっとの思いでウンチをしていたらドヤドヤと便所に入ってきた上級生のひとりがドアをドンドンたたいたり、上からのぞいたりして、ウンチは中断、その悔しさを心にしまっておけなくて、少したって母親に打ち明けたのだ。早速に母親によってそのことがお便り帳に書き込まれ、担任が動き、該当の男の子がわかり、こっぴどくしかられた揚げ句、親つきそいで我が家にくるはめになったのである。

学校の便所についてはかねてから我が家では大きな話題になっていた。「トイレの花子さん」の映画の怪談話で行かないのでなくて、「汚い」「臭い」「暗い」の3Kを入学直後に実感した孫が「学校で一番いきたくないところは学校のトイレだ」と語気をつよめていった。そのトイレでやっとうんちができるようになったのにと母親である我が娘は「弱いものを脅し、

からかい、快感を感じる。そんなことはいたずらといわない」と怒った。担任の「男の子にありがちないたずらですから」という注釈にはいまだ釈然としないらしい。

その男の子の行為も問題だったとは思うが、昨今、どの子も自宅のきれいなトイレに入り、旅行先の宿でも、公園・遊園地のトイレでもみんなきれいなホテル並のトイレになりつつあるのに、旧態依然としていて「学校の花子さん」の怪談の成り立つ状態にあるのが学校のトイレだ。子どもに不用な緊張を強いる所だ。

先日、出入りの大工さんが県外の某私立高校のホテル並のトイレ建設に行ってきた話をした。「先生、あれだけ汚しやうがないてば、ぼっかきれいで、明るくて、気持ちいいだが……」という話だった。神奈川県横須賀市も自治体として「子どもたちの声を聞き、子どもと協働して改善を進めている……市立馬堀小学校もその一つ。トイレは教室と同じ教育の場……。子どもたちはトイレ掃除も熱心になり……トイレに行きたくなるようになってきた」という新聞記事を読んだ。

この二つの話に我が家は同感、新潟にも学校のトイレ改修の世論を起こそうで一致した。(ほんだ)